

# 優秀賞

小学生高学年の部

働く人への「恩返し」

小学6年 間々田さん

夜八時、お母さんが帰ってきた。

「疲れたあ〜。」そう言いながらも、お母さんは立ち上がり、夕ご飯のしたくをする。見るからに疲れているのにしっかりと家事をこなしている。学校の家庭科の授業で、お味噌汁を作ることになった。1グループ5人で作ったが、分量を量ったり、材料を入れるタイミングなど、いろいろなことが一度に起こり、とても大変だった。家事は料理だけではないけれど、自分でやってみてはじめて大変さがわかった。

そして今、私は夕ご飯を食べている。このいつもの日常で、私がこうして生活するために支えてくれている人は何人いるのだろうか。

それはとてつもない人数だ。ご飯をつくってくれたお母さんから始まり、その食材をつくってくれた人。その料理をよそう器を作ってくれた人、そして、家具やテレビ、家を作ってくれた人・・・と、数え切れない。そしてその多くの人は私を知らない人達ばかりだ。

しかし私は、その多くの人達に何のお礼もできていない。お金はもちろん出しているが、それも、お父さんかお母さんが出して私の生活を支えてくれている。結局私は、1人では私を支えてくれる人達に何のお礼もできていない。

「どうしたらみんなに感謝の気持ちを伝えられるかな。」と、考えてみた。そして、学校で『やりたい仕事』について調べる授業を受けたことを思い出した。その時は「みんなの役に立つ仕事がいいな・・・。」と考えたが、どんな仕事があるのかわからなかった。お母さんはどんな仕事をしているかを聞いてみても「みんなのためになる仕事をしているよ。」と言うだけで内容は難しくてわからなかった。

「興味があつたり、得意なことをいかせる仕事がいいね。」「どんな仕事があるかな。」と授業ではいっていた。私は算数や理科の実験が好きなので、それに関係がある仕事で、私を支えてくれるたくさんの人と同じくらい多くの人の役に立ち、困っている人を助けられる仕事をしたかった。その時は「医者になろう!」と考えたが、今はいろんな仕事があることがわかってきた。友達のお父さんやお母さんにも、どんな仕事をしているか聞いてみたくなった。

今、私は六年生で、小学校の最上級生だ。1年生や下級生の面倒は見ているけれど、まだまだ私もみんなに支えられながら生活している。今はまだ、できることは少ないけれど、いつか絶対みんなに恩返ししたい。年を重ねるごとに、私を支えてくれた人も多くなる。私も、夢に向かって進んでいく。何ができるかわからないけれど、一步一步進んでいくことと、それが一番の恩返しだと思う。とりあえず、「ありがとう!そしてこれからもよろしく!」と言いたい。